



平成23年5月10日

各 位

会 社 名 大和ハウス工業株式会社
(コード番号1925 東証・大証第一部)
代表者名 代表取締役社長 大野 直竹
問合せ先 経営管理本部 I R室長 土田 耕一
電話番号 (06) 6342 - 1400

たな卸資産評価損および減損損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成23年3月期決算（平成22年4月1日～平成23年3月31日）において、たな卸資産評価損および固定資産の減損損失を計上することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. たな卸資産評価損

(1) 【連結】平成23年3月期末のたな卸資産評価損の総額

(A) 平成23年3月期第4四半期中のたな卸資産評価損の増加額（連結） (イ) - (ロ)	11,515 百万円
(イ) 第4四半期末のたな卸資産評価損の総額（連結）	13,873 百万円
(ロ) 第3四半期末のたな卸資産評価損の総額（連結）	2,358 百万円
(B) 平成22年3月期の連結純資産の額 (A/B×100)	617,769 百万円 (1.9%)
(C) 平成22年3月期の連結経常利益額 (A/C×100)	60,036 百万円 (19.2%)
(D) 平成22年3月期の連結当期純利益額 (A/D×100)	19,113 百万円 (60.2%)

(2) 【個別】平成23年3月期末のたな卸資産評価損の総額

(A) 平成23年3月期第4四半期中のたな卸資産評価損の増加額（個別） (イ) - (ロ)	11,658 百万円
(イ) 第4四半期末のたな卸資産評価損の総額（個別）	14,011 百万円
(ロ) 第3四半期末のたな卸資産評価損の総額（個別）	2,352 百万円
(B) 平成22年3月期の純資産の額 (A/B×100)	545,317 百万円 (2.1%)
(C) 平成22年3月期の経常利益額 (A/C×100)	39,045 百万円 (29.9%)
(D) 平成22年3月期の当期純利益額 (A/D×100)	12,969 百万円 (89.9%)

(注) 当社グループが保有するたな卸資産のうち、主に販売用不動産について「棚卸資産の評価に関する会計基準」に従い正味売却価額まで簿価を切り下げ、差額を売上原価に計上しました。

2. 減損損失

(1) 【連結】平成23年3月期末の減損損失の総額

(A) 平成23年3月期第4四半期中の減損損失の増加額 (連結) (イ) - (ロ)	17,958 百万円
(イ) 第4四半期末の減損損失の総額 (連結)	18,768 百万円
(ロ) 第3四半期末の減損損失の総額 (連結)	810 百万円
(B) 平成22年3月期の連結純資産の額 (A/B × 100)	617,769 百万円 (2.9%)
(C) 平成22年3月期の連結経常利益額 (A/C × 100)	60,036 百万円 (29.9%)
(D) 平成22年3月期の連結当期純利益額 (A/D × 100)	19,113 百万円 (94.0%)

(2) 【個別】平成23年3月期末の減損損失の総額

(A) 平成23年3月期第4四半期中の減損損失の増加額 (個別) (イ) - (ロ)	12,354 百万円
(イ) 第4四半期末の減損損失の総額 (個別)	13,057 百万円
(ロ) 第3四半期末の減損損失の総額 (個別)	703 百万円
(B) 平成22年3月期の純資産の額 (A/B × 100)	545,317 百万円 (2.3%)
(C) 平成22年3月期の経常利益額 (A/C × 100)	39,045 百万円 (31.6%)
(D) 平成22年3月期の当期純利益額 (A/D × 100)	12,969 百万円 (95.3%)

(注) 当社グループは、原則として、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分(支店、各拠点、各物件等)を単位としてグルーピングしています。上記の減損損失は、不動産価格の下落や競争の激化に伴う収益性の悪化により帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失に計上しました。

3. 業績に与える影響

上記のたな卸資産評価損及び固定資産の減損損失を計上した平成23年3月期通期決算の内容につきましては、本日(平成23年5月10日)発表しております「平成23年3月期 決算短信」をご覧ください。

以 上